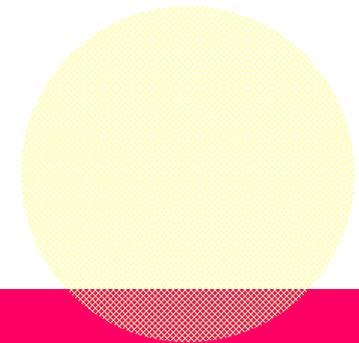


第3章
再生整備基本構想



1. 目指すべき再生整備ビジョン

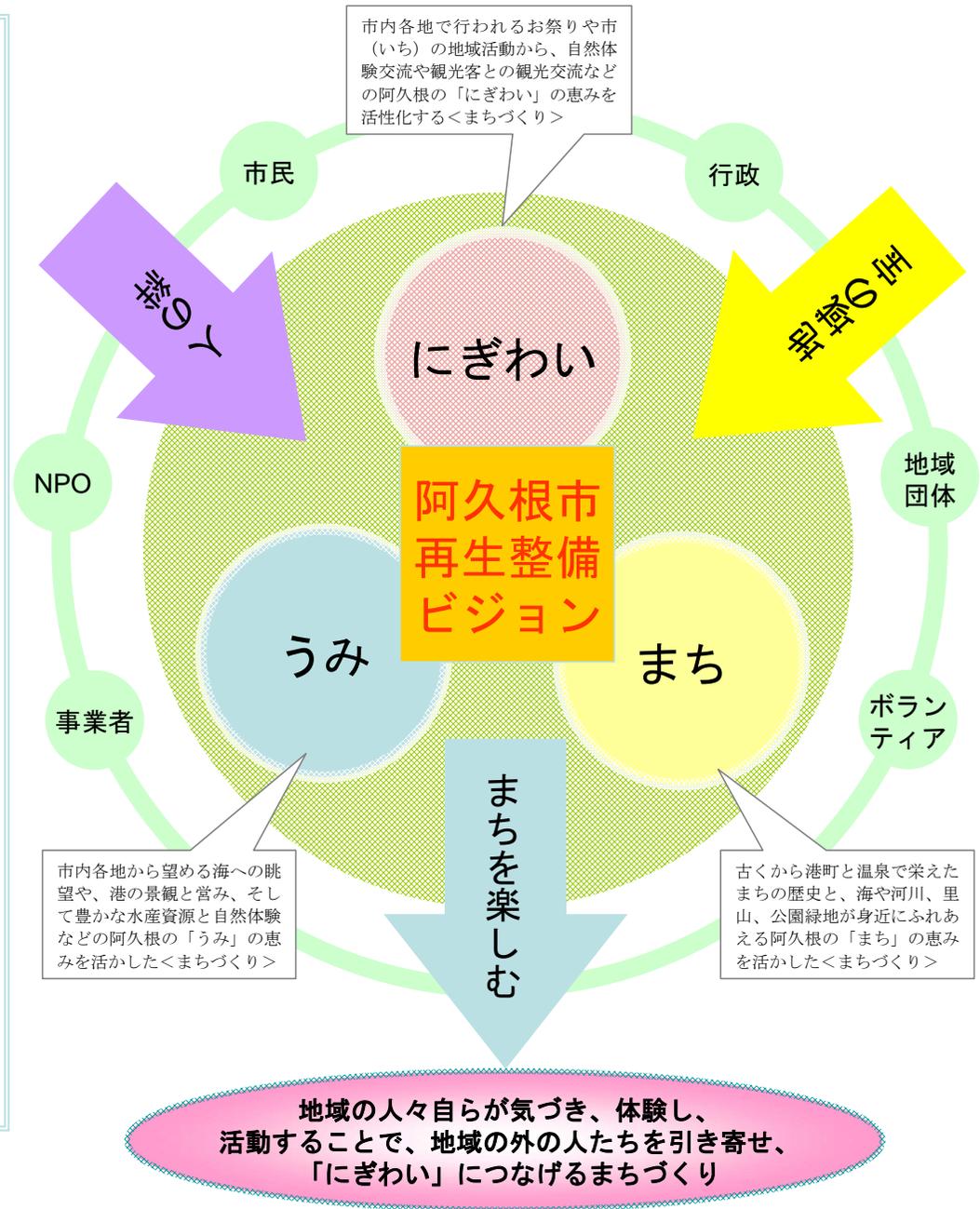
地域の宝を育て、人の絆でまちを楽しむ 「うみ まち にぎわい」の阿久根まちづくり

◇成熟期に入った現在の社会では、ハード整備だけの活性化には多くの効果が期待できず、息の長い”にぎわいのまちづくり”にはつながりません。また、都市間の高速交通体系からも取り残されている阿久根市ですが、その一方で、豊かな自然資源や、語り継がれる歴史と固有の文化が阿久根市には残されており、市民の誇りになっています。

◇阿久根市が目指すまちづくりでは、まずはこうした魅力とまちの楽しみ方を、地域の人々自らが気づき、体験し、活動することで、地域の外の人たちを引き寄せ、「にぎわい」につなげるまちづくりを進めます。

◇そしてその原動力となり、まちづくりを行う主役は、これまで阿久根市が培ってきた文化や交流であり、それを支えてきた市民や団体です。

◇阿久根のにぎわいを生むまちづくりの道しるべとして、都市の再生整備とソフトのプロジェクトが連携したまちづくりのビジョンを掲げます。



2. 再生整備基本計画の構成

○阿久根市を取り巻く社会情勢の現状と課題

- ・ 少子化と高齢化の同時進行による人口減少と過疎化の進行
- ・ 漁業・農業の基幹産業の生産高の減少
- ・ 広域高速交通ネットワークの整備・連携の遅れ
- ・ グローバル化の進展と地域間競争の激化
- ・ 自立した地域づくりと多様な主体との協働の高まり
- ・ 環境意識の高まりによる地域環境の保全と省エネへの取組

○まちづくりを進める上で活かすべき阿久根市の特性と地域資源

- ・ 地域の誇りと個性あるまちの魅力につながる歴史ある地域文化・風土
- ・ 豊かな食材とブランド化とく食をテーマにした継続的なPRと地域の取組
- ・ 山や海、里の豊かな自然資源と地域内外との自然体験交流
- ・ 市街地と隣接した昔ながらの旧港景観と高規格の新港の機能
- ・ 多様な公園緑地や身近な海や河川などの親水・緑地空間
- ・ おれんじ鉄道や道の駅などの交通ネットワーク拠点での観光振興の取組
- ・ 健康で安心安全なまちづくりへの地域の取組

○目指すべき再生整備ビジョン

地域の宝を育て、人の絆でまちを楽しむ 「うみ まち にぎわい」の阿久根再生まちづくり

成熟期に入った現在の社会では、ハード整備だけの活性化には多くの効果が期待できず、息の長い「にぎわいのまちづくり」にはつながりません。また、都市間の高速交通体系からも取り残されている阿久根市ですが、その一方で、豊かな自然資源や、語り継がれる歴史と固有の文化が阿久根市には残されており、市民の誇りになっています。

阿久根市が目指すまちづくりでは、まずはこうした魅力とまちの楽しみ方を、地域の人々自らが気づき、体験し、活動することで、地域の外の人たちを引き寄せ、「にぎわい」につなげるまちづくりを進めます。

そしてその原動力となり、まちづくりを行う主役は、これまで阿久根市が培ってきた文化や交流であり、それを支えてきた市民や団体です。

阿久根のにぎわいを生むまちづくりの道しるべとして、都市の再生整備とソフトのプロジェクトが連携したまちづくりのビジョンを掲げます。



■にぎわいを生むまちづくりへの道しるべと再生整備の展開

○阿久根の魅力を外内にアピールするため、阿久根の交通拠点や阿久根の魅力が集約する地区において、まちを代表する顔として来訪者に強い印象を与え、さらに愛着が育まれる阿久根のシンボルとなる拠点を創出します。
○整備資源の拠点への「選択と集中」により、人々の交流と活動の核となる情報発信力をもった質の高い拠点の創出を実現します。

展開：Ⅰ

「阿久根のにぎわいと交流の拠点づくり」

1. 阿久根の交通拠点と交流の核となる駅周辺の拠点整備（駅舎・駅前広場・シンボルロード）
2. 海の自然体験と港の活気を集約した旧港拠点整備
3. 豊かな文化を育む芸術と交流の拠点整備

○阿久根の魅力と地域資源をひとつひとつ取り上げ、心地よさと地域の特色を演出した「おもてなし」のまちなみづくりによって、拠点から市街地への誘導に結びつけ、回遊と交流による多様なまちなみ滞留を実現します。
○まちなみを訪れる人や高齢者、子供を大切にしたい安心・安全なまちなみづくりを推進し、地域の健康づくりや、屋外活動でにぎわうまちなみを創出します。

展開：Ⅱ

「阿久根を楽しむおもてなしのまちなみづくり」

1. 拠点をつなぐまちなみ回遊ルートの形成
2. 地域の魅力を引き出すおもてなしの景観としかげづくり
3. 歩行者を大切にしたい安心安全なまちなみづくり
4. 多彩な公園緑地のまちなみへの活用とネットワークの形成

○現在継続的に行っている阿久根のまちづくりや食のイベント活動を、再生整備ビジョン実現を見越した「にぎわい創出」を牽引するリーディングプロジェクトとして集中的に展開し、ハード・ソフトが連動したまちづくりを段階的に推進します。
○民間活力や地域協働プロジェクトにより多様な観光ニーズに対応するとともに、地域産業の育成とPRを継続的に推進し、その活動の場の受け皿となる施設を整備します。

展開：Ⅲ

「阿久根を導く協働によるリーディングプロジェクトの展開」

1. 阿久根「バーベキュー」宣言
2. 「元気市」活性化プロジェクト
3. 阿久根のふるさと再発見プロジェクト
4. グリーン・ブルーツーリズム交流プロジェクト
5. おれんじ鉄道観光連携プロジェクト

活動空間・施設整備の受け皿

3. 観光ツーリズムのモデル整理

◇本再生整備基本計画において、にぎわいを創出するためには、地域住民を対象とした施設整備だけでなく、観光をはじめとした地域外との交流の活性化も対象とした、住んでよし、訪れてよしの効果を継続的に発揮させていく必要がある。

◇特に阿久根では、大型施設や都市型観光にみられる大資本による観光振興は現実的ではなく、阿久根がもつ潜在的な地域資源を見つけ出し、地域でその価値を共有化し、それを地域外に発信することによって、観光地や観光ブランドとして定着させる観光ツーリズムを展開させていくことが必要である。

◇そこで、阿久根における展開可能な観光ツーリズムのモデルの整理を行い、その特性を把握することによって、持続的ににぎわい創出の実現と、地域資源の再発見、維持、ホスピタリティの向上の効果の実現を図る。

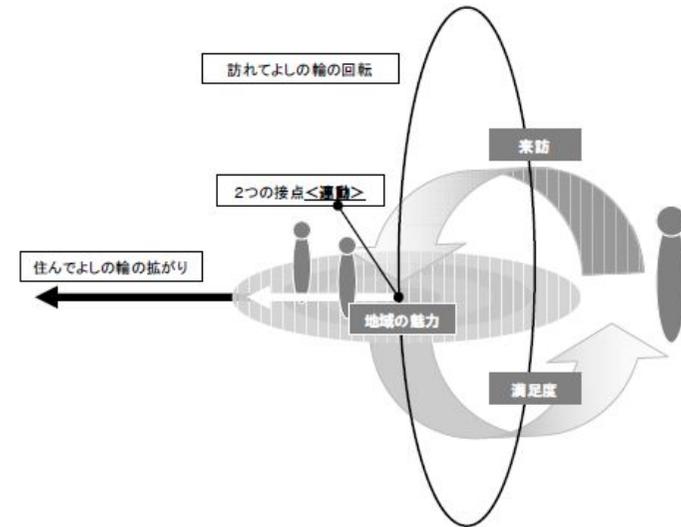
◇阿久根の観光モデルとして、「グリーンツーリズム」、「ブルーツーリズム」、「カルチャーツーリズム」、「ヘルスツーリズム」の4つの観光ツーリズムの形態を抽出し、阿久根における展開方針について、以下に取りまとめる。

1) グリーンツーリズム

グリーンツーリズムとは、農山漁村地域において自然、文化、人々と交流を楽しむ滞在型余暇活動であり、グリーンツーリズム施設の年間延べ宿泊数は年々増加している。また、(財)日本交通公社「農山漁村への体験・滞在型旅行への実態とニーズ調査(2009年3月)」によると、農山漁村地域への訪問理由として「のんびりできそう」(52.5%)、「おいしい食材で有名な場所」(40.4%)、「おいしい料理で有名な場所」(37.7%)と続いており、農山漁村の多様な地域資源が主な訪問理由となっている。

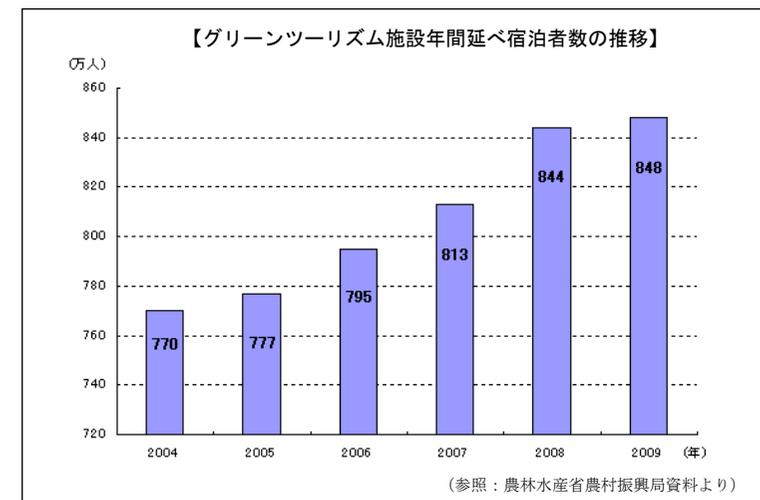
(展開方針)

◇ヒト(事業に取り組む人的資源、観光客の受入能力や経験)・モノ(宿泊や農産物加工施設)・カネ(施設整備やスタッフ雇用資金)・情報(交流機会、距離)などの経営資源の強化を踏まえた、農商工連携による新商品・新サービスの開発、生産などの需要の開拓と情報、企画提案の推進



【地域における観光の社会的効果】

(参照：日本人の観光旅行の状況に関する調査・分析の報告書(観光庁H21))



2) ブルートゥリズム (漁業体験モデル)

漁港を地域資源として捉え、都市住民をターゲットに地方自治体と漁業協同組合などが連携し、漁業体験、水産直売などを実施し、漁業多角化と観光収入に発展させる取組が進められている。しかし、現状において漁協が行う体験メニューが主体で、地域と連携して広く地域に波及しているブルートゥリズムの事例は少ない。また、全国的に遊漁船や海釣り、潮干狩り等の体験メニューを実施している漁業組合数も減少しているため、事業化が困難になる状況がみられる。

(展開方針)

◇地域資源、地域連携を組み合わせた漁業地域滞在体験による地域観光への転換と、地域全体によるもてなしのサービス力の強化

3) カルチャーリズム

カルチャーリズムとは、観光旅行者が独自の歴史に根ざした文化財や多彩な祭り、伝統芸能などの文化的な観光資源とふれあい、これに関する知識及び理解を深める文化観光で、特に北欧や北米からの訪日外国人旅行者は、日本のカルチャーに関心が高く日本文化に焦点を当てたツアーに人気がある。

(展開方針)

◇阿久根の歴史に根ざした伝統や史跡、物語（七不思議）などの多様な地域文化を地域観光資源として世界に発信する体制づくりの推進
 ◇富裕層や外国人旅行者をターゲットとした、高い知識と接客力のサービスの向上と人材育成の推進

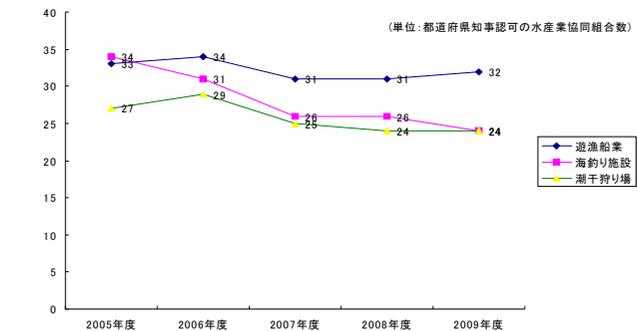
4) ヘルスリズム

ヘルスリズムとは、自然豊かな地域を訪れ、そこにある自然、温泉や身体に優しい料理を味わい、心身ともに癒され、健康を回復・増進・保持する新しい観光形態であり、医療に近いものからレジャーに近いものまで様々なものが含まれる。JTBヘルスリズム研究所の調査によると、消費者の「旅行」に健康を取り入れたい意向は、全体の約8割であり、「健康」をテーマにした旅行に行きたい人は「宿泊旅行」「日帰り旅行」とともに約6割となっている。旅行先で試したい健康活動は、「温泉」(79%)「森林セラピー、自然体験」(54%)、「整体・マッサージ」(38%)、「*タラソテラピー・エステ・スパ」(34%)となっており、幅広い年齢層にニーズが存在している。

(展開方針)

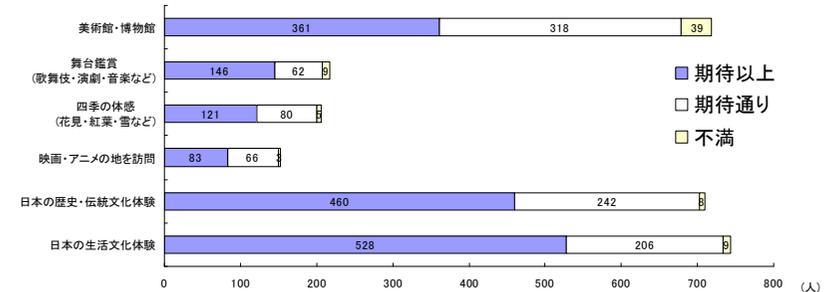
◇本物志向で、かつ、わかりやすいストーリーをもった地域ヘルスリズムの資源（医療・温泉・食事など）の掘り起こしと、産・学・官が一体となった受け入れ体制の構築の推進

【事業種別実施組合数】



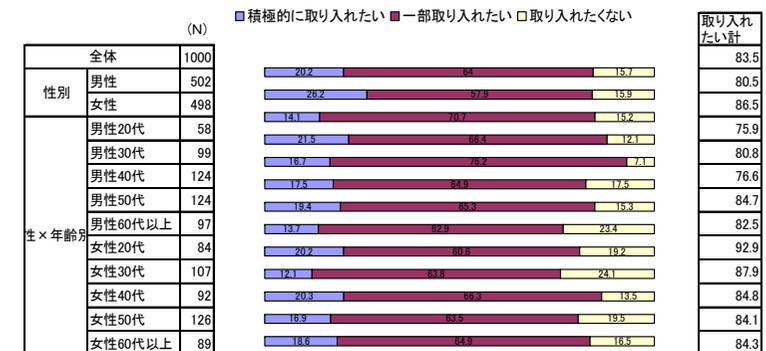
(農林水産省「水産業協同組合統計表」2011年10月公表より)

【訪日外国人文化観光別の満足度】



(観光庁「訪日外国人消費動向調査」2011年7月～9月調査より一部抜粋)

【消費者の「旅行」に健康を取り入れたい意向】



*タラソテラピーとは、日本では「海洋療法」と名付けられ、「海洋気候の作用の中で、海水、海藻、海泥を用いて行う治療」とされている。海洋療法は海を活用した「自然療法」であり、美しい自然の海洋環境がもたらす快適性や海洋生物などの資源を最大限活用して心身を癒すものである。現在、世界には260を超えるタラソ関連施設、併設ホテルが存在する。

(JTBヘルスリズム研究所「ヘルスリズムの現状と展望」より)

観光ツーリズムのモデル：

グリーンツーリズム



- ・経営資源の強化
- ・農工商の連携
- ・需要とサービスの開拓

ブルーツーリズム



- ・地域連携、滞在型プログラムへの転換
- ・地域展開によるサービスの強化

カルチャーツーリズム



- ・独自の地域文化の観光資源化と情報発信
- ・文化に対応する高い知識とプログラムの向上

ヘルスツーリズム



- ・本物志向の資源とプログラムの掘り起こし
- ・受け入れ体制の構築と産官学の連携

展開方針：

再生整備基本計画に必要とされる機能：

展開：Ⅰ

「阿久根のにぎわいと交流の拠点づくり」

1. 阿久根の交通拠点と交流の核となる駅周辺の拠点整備
2. 海の自然体験と港の活気を集約した旧港拠点整備
3. 豊かな文化を育む芸術と交流の拠点整備

【必要とされる機能】

- ・交通と海の観光シンボルとしての拠点機能の確保
- ・阿久根の観光施設・体験プログラムの発信や、観光情報の窓口となる施設が集約した、わかりやすい観光情報窓口機能の確保
- ・観光交流や活動場所、待機場としての空間機能の確保

展開：Ⅱ

「阿久根を楽しむおもてなしのまちなみづくり」

1. 拠点をつなぐまちなみ回遊ルートの形成
2. 地域の魅力を引き出すおもてなしの景観としかけづくり
3. 歩行者を大切にしたい安心安全なまちなみづくり
4. 多彩な公園緑地のまちなみへの活用とネットワークの形成

【必要とされる機能】

- ・地域資源の保全と観光活用のためのしかけや体験機能の確保
- ・観光にふさわしいまちなみや探索機能の確保
- ・安全でわかりやすいルートプログラムと施設機能の確保
- ・自然豊かな美しいまちなみ景観の形成

展開：Ⅲ

「阿久根を導く協働によるリーディングプロジェクトの展開」

1. 阿久根「バーベキュー」宣言
2. 「元気市」活性化プロジェクト
3. 阿久根のふるさと再発見プロジェクト
4. グリーン・ブルーツーリズム交流プロジェクト
5. おれんじ鉄道観光連携プロジェクト

【必要とされる機能】

- ・食文化や体験プログラムの充実と広がりのある地域展開
- ・産官学の連携による多様な企画提案の向上や、6次産業への転換
- ・幅広い受け入れ体制の構築と地域連携
- ・富裕層にも対応できる本物志向の観光資源の掘り起こしと質の高いサービスの展開